

[研究報告]

医療系学生に対するハンドボールメディカルサポーター
育成講習会開催について
～講習会終了後アンケート調査結果～

陣 上 修 一^{1) 2)} 佐久間 克 彦³⁾ 井 本 光次郎³⁾

Report of hand-ball medical supporter training seminar for co-medical students
Result of the questionnaire survey afterward seminar

Syuichi JINGAMI, Katsuhiko SAKUMA, Koujiro IMOTO

- 1) 熊本保健科学大学 保健科学部
- 2) 久留米大学大学院 医学研究科
- 3) 熊本赤十字病院 整形外科

抄録

【目的】 熊本県ハンドボール競技における医科学サポートを充実させる目的で、医療系学生を対象にハンドボールメディカルサポーター養成講習会を実施した。2010年から毎年開催し、これまで計5回開催し1回あたりの平均参加者数は54.6名(22～76名)で、修了者総数は277名である。今年度講習会修了者76名に対してアンケート調査を行い59名から回答を得た。【結果】「本日の養成講習会の感想」の問いに、「とても満足」33名、「概ね満足」24名と57名(97%)が満足と回答した。「スライドを使用したプレゼンテーションの講義スタイル」の質問では「とても満足」37名「概ね満足」19名で「やや不満」「不満」と回答したものは無かった。「5月開催の時期」について95%が肯定し、約2時間で終了する講義時間について約75%が「ちょうど良い」と回答した。「講師1人あたりの講義時間」を15～20分としたことに関しては、約66%が「ちょうど良い」と回答した。【結語】 アンケートの結果も踏まえ更に改善を加え、2019年熊本県で開催予定の世界女子ハンドボール選手権にも対応できるよう準備していく予定である。

キーワード：学生サポーター， ボランティア， アンケート

I. 緒言

近年、あらゆるスポーツにおいて医科学サポートの重要性について十分認識されているが、現実問題としてそれに携わるマンパワーの不足は深刻である。熊本県ハンドボール協会医科学委員会は医師3名、トレーナー2名の計5名と少人数で活動している。現状では都道府県レベルの中小高校等の大会で専門の医療スタッフが実働することは不可能である。

そこで我々は、熊本県ハンドボール協会主催の大会における医科学サポートメンバー確保や大会ボランティアの充実をはかる目的で、平成22年から医療

系学生を対象にしたメディカルサポーターを育成する講習会を開催し(図1)今年27年度で5回目を迎えた。今回、講習会の内容と講習会終了後に行ったアンケート調査の結果を合わせて報告する。

メディカルサポーターとは^{1) 2)}日本ラグビーフットボール協会がルールブック第6条A4(f)に定義している。「レフリーは、規則に従って、チームドクター、医務心得者、またはその助手が競技区域内に入る許可を与える。」の「その助手」にあたる任務を遂行するものをメディカルサポーター(平成24年4月1日より「セーフティーアシスタント」へ改名)という。ラグビー競技は広い競技区域内で両



図1 講習会風景

チーム合わせて30人の競技者がボール支配をめぐる激しいコンタクトプレーを繰り返すため負傷者も多発する。その為ラグビーには競技者の安全性と試合進行の円滑化を意図してこの制度が取り入れられている。ハンドボール競技も激しいコンタクトプレーはラグビーと同様である。サッカー競技においては都道府県レベルでメディカルサポーター講習会の開催が報告³⁾されているが、ラグビー、サッカー競技以外では未だこの制度の導入した競技は見当たらない。

II. 方法

① 講習会の方法

熊本県内医療系大学生、リハビリテーション関連専門学校などの学生を対象に「ハンドボールメディカルサポーター養成講習会」参加者を募集した。参加の有無による不利益が生じないよう倫理面にも考慮し自由参加とし、開催日も学業に支障ないよう休日とした。講習会は毎年1回開催し、対象者のハンドボール経験の有無にかかわらず理解できるようにルールの説明から競技特性、外傷の特徴などを写真や動画で解説するなどわかりやすい内容にした。講習会運営に関して、講師への謝礼はなく熊本県ハンドボール協会の協力をいただき、参加者の参加費は無料とした。講習会修了者には熊本県ハンドボール協会から修了証書(図2)を授与した。平成22年にメディカルサポーター規則も作成し、修了者には年1回以上の県ハンドボール協会主催の大会への参加協力義務を課し、熊本県ハンドボール競技の医科学サポートの充実に貢献できるよう企画した。

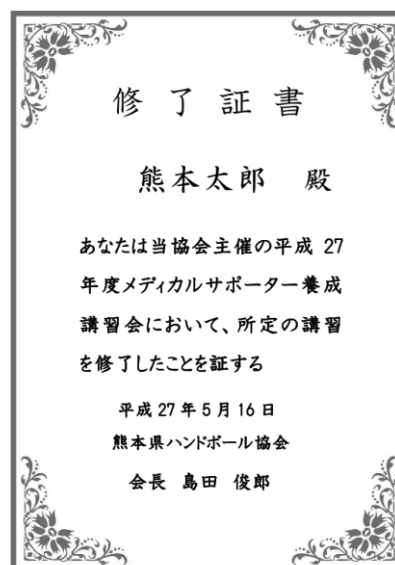


図2 修了証書

② 終了者アンケート方法

平成27年度講習会修了者へ無記名式アンケート調査を行った。「本日の養成講習会の感想」「スライド使用したプレゼンテーションの講義スタイル」「開催時期について」「全講義時間について」「講師1人あたりの講義時間」に関する5問の質問については、それぞれ3～5つ選択肢の中からいずれか一つのみ選択させた。「今後講義を聴いてみたい講師の職種」の質問は「ドクター」「ハンドボール選手」「指導者」「審判」「フィジカルトレーナー」「メンタルトレーナー」「看護師」「薬剤師」「栄養士」「スポーツクラブ経営者」「スポンサー」「ハンドボール協会関係者」から複数回答させた。最後に「講習会内容についての要望」は自由記載とした。

III. 講習会の紹介

① 講習会プログラム

- 13:00 開会挨拶
熊本県ハンドボール協会理事長
大宮 泉
- 13:05 「ハンドボール競技におけるスポーツ医学の関わり」
日本ハンドボール協会医事委員長
医師 佐久間克彦
- 13:35 「ハンドボール競技におけるトレーナーの役割」

- 日本ハンドボール協会医事委員
理学療法士 陣上 修一
- 14:05 「ハンドボールの競技特性について」
日本ハンドボール協会公認 A 級審判員
日本赤十字社熊本健康管理センター
健康運動士 鶴田祐一郎
- 14:35 「熊本県ハンドボールの現状について」
熊本県ハンドボール協会事務局長
指導者 奥園 栄純
- 14:50 修了証書授与
15:00 閉会

② 講師陣

これまでに講義を担当した医師は全員整形外科専門医、日本体育協会公認スポーツドクターで全日本女子ナショナルチームドクター経験者や国際大会帯同ドクターであった。トレーナーは日本リーグ所属チームトレーナーや日本体育協会公認アスレチックトレーナーの資格を持つ理学療法士であった。審判は日本ハンドボール協会公認 A 級審判員、その他高校ハンドボール部指導者兼県ハンドボール協会事務局長や日本体育協会公認スポーツ栄養士等が担当した。

③ 講義内容

講義の内容は、ハンドボール競技のルール解説からハンドボール外傷・競技特性、ハンドボール外傷・障害治療法（保存、手術供覧）ドーピングコントロール、海外帯同報告、日本リーグの外傷・障害について、日本リーグ選手のトレーニング法、テーピングの実際、NFRep（National Federation Representative）活動報告、ハンドボール大会運営について、スポーツ選手の栄養学等多岐にわたる内容でハンドボール未経験者にも理解できるよう工夫し、医療系学生が興味を持つ臨床的な症例供覧には画像や動画等を用いて行った。講師一人の講義時間は15～20分と短時間にし、講義スタイルはスライドを使用した。一回の全講習時間は約2時間で終了するプログラムとした。

④ 受講者の内訳

平成27年度の受講者総数は76名で全員修了証書を授与された。その内訳は大学生では理学療法学専攻学生36名、医学検査学科学生3名、鍼灸スポーツ専

攻学生40名、薬学部学生ハンドボール部員1名で、専門学校生は理学療法学専攻学生15名であった。その他ハンドボール指導者やハンドボール選手の保護者など学生以外の社会人7名の参加もあった。

これまで平成22年度から平成27年度までの6年間で東日本震災の平成23年を除き計5回開催した。1回あたりの平均参加者数は54.6名（22～76名）で、大学生修了者総数の内訳は、理学療法学専攻学生176名、生活機能学専攻（作業療法学専攻）学生3名、医学検査学科学生4名、看護学科学生3名、鍼灸スポーツ専攻学生40名、その他1名であった。専門学校生修了者総数の内訳は、理学療法学専攻学生42名、看護学科学生1名、その他社会人7名であった。平成27年度までの講習会修了者総数は277名である。

Ⅳ. 講習会終了後のアンケート調査結果・考察

平成27年度講習会修了者へ無記名アンケート調査を行った。76名参加中59名から回答を得、回収率は77.6%であった。

結果1（図3）「本日の養成講習会の感想」（いずれか一つに○）の問いに対し「とても満足33名」（約56%）「概ね満足24名」（約41%）「普通」1名で「やや不満」「不満」と回答したものは無く97%が満足と回答した。結果2（図4）「スライド使用したプレゼンテーションの講義スタイルはいかがでしたか」（いずれか一つに○）の質問では「とても満足」37名（約63%）「概ね満足」19名（約32%）「普通」3名（5%）で「やや不満」「不満」と回答したものは無かった。対象が学生で通常よりスライドや動画などのプレゼンテーションスタイルに慣れている為、抵抗感が無かったと考えられた。結果3（図5）「開催時期について」の質問では5月開催について「5月より早い時期」を希望したものの2名「5月より遅い時期」を希望したものの1名で「ちょうど良い」と回答したものが56名と回答者の95%は5月開催を肯定していた。

結果4（図6）約2時間で終了する「全講義時間について」の質問には「短い」2名「やや短い」10名「ちょうど良い」43名「やや長い」2名「長い」2名と意見が分かれたが、約75%が「ちょうど良い」と回答した。2時間という全講義時間内に4～5名の職種の違う講師が様々な講義内容で行ったこ

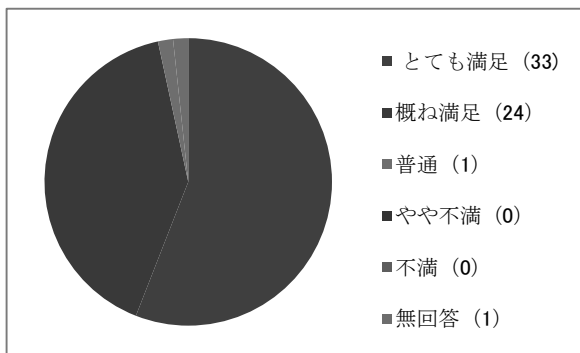


図3 本日の講義内容について

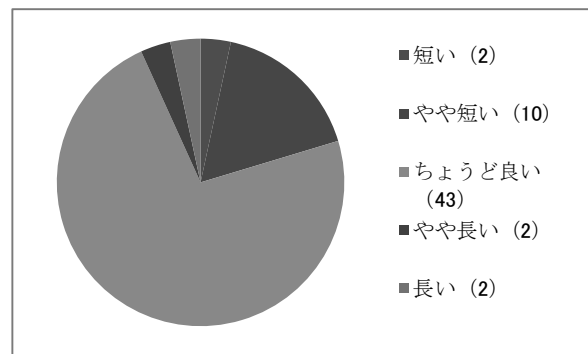


図6 全講義時間について

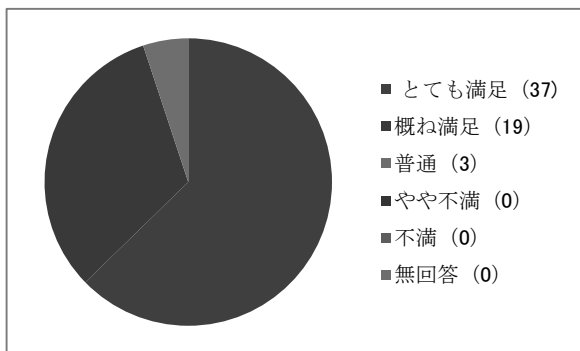


図4 スライド使用したプレゼンテーションの講義スタイルについて

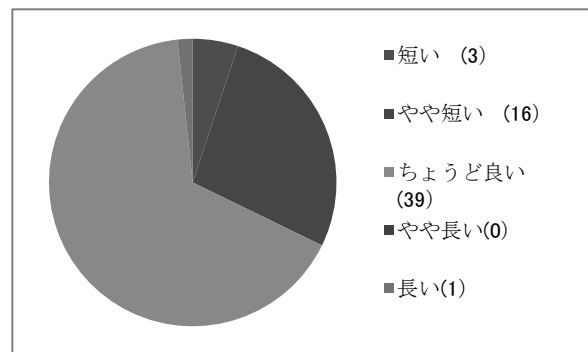


図7 講師1人あたりの講義時間

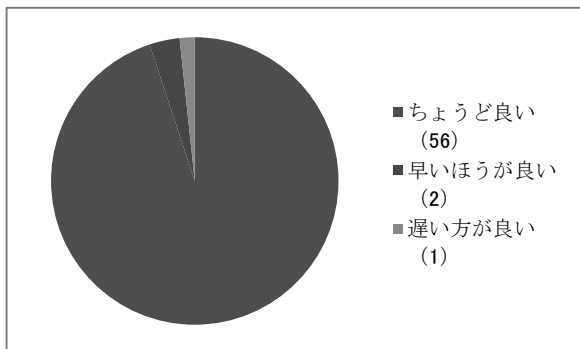


図5 開催時期について

とも研修会全体を通して、間延びを感じる事が無い、良好な回答結果につながったと考えた。しかし32%の学生は「短い」と感じていた。この結果について推測であるが、非常に興味深く2時間で終了するのが残念と感じているのか、休日にわざわざ受講して2時間は短いと感じたのかなど不明である。今後その理由を問うことなど、質問内容の再考が必要と思われた。

結果5(図7)「講師1人あたりの講義時間」を15~20分としたことに対しては「短い」3名「やや短い」16名「ちょうど良い」39名「やや長い」0

名「長い」1名で約66%は「ちょうど良い」と回答した。この理由としてハンドボール未経験者の受講者も興味深く退屈しないよう考慮し講師一人あたりの講義時間を15~20分と短時間にすることが良好な結果につながったと考えた。

この講義時間に関する回答結果から、これまでの講義時間を一律一定時間としていたが、毎回テーマを定めてテーマに沿った特別講義は時間を長めにする等、今後検討する必要性が示唆された。

結果6(図8)では「今後講義を聴いてみたい講師の職種」について複数回答可で質問した結果、回答の多い順に「フィジカルトレーナー」32名「ハンドボール選手」30名「栄養士」25名「メンタルトレーナー」24名「指導者」21名「ドクター」10名「スポーツクラブ経営者」9名「審判」8名「薬剤師」5名「スポンサー」5名「ハンドボール協会関係者」5名「看護師」4名であった。複数回答ではあるが、要望職種は多職種にわたり、これらの要望を実現する為には、これまでの年1回の開催から複数回開催も考える必要があると思われた。

その他「講習会内容についての要望」を自由記載させたところ「選手の体験談」「症例報告を多く聞

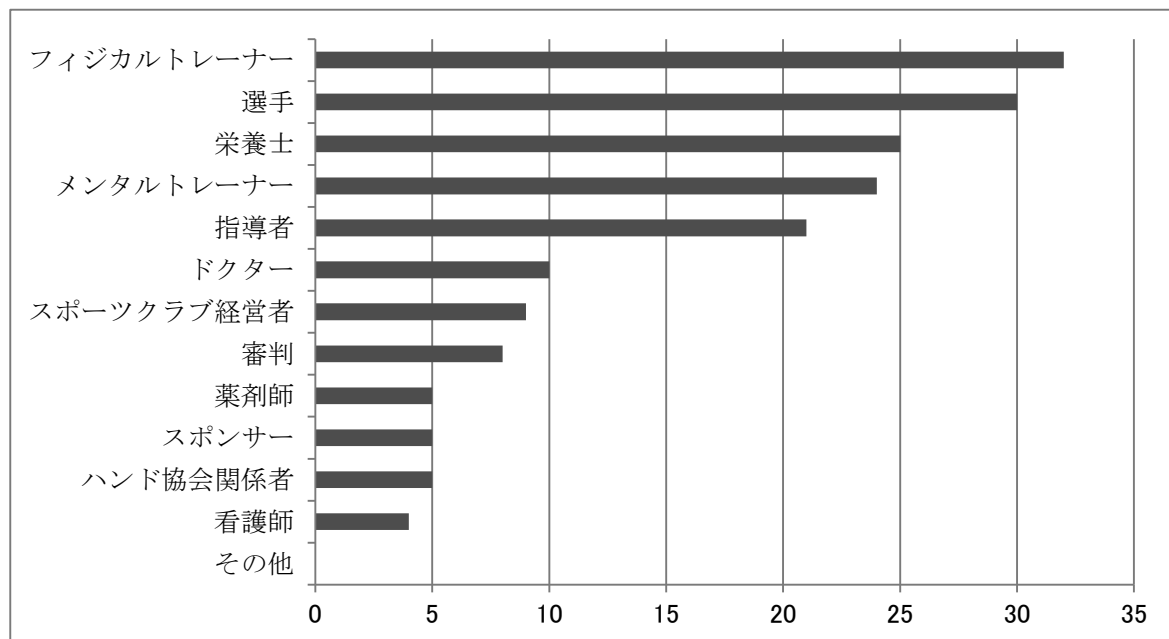


図8 今後講義を聞いてみたい講師の職種

きたい」「トップアスリートの話」「選手・指導者が求めるトレーナーとは?」「トレーナーの実技」「テーピング実技」「キネシオテーピング」「トレーナーの現場の様子」「メンタルトレーニングについて」「学生がやるべき事を教えてほしい」「応急処置について」「救急蘇生法」「AED 使用法など」「選手・監督の話が聞きたい」「スポーツでの怪我の治療について」「学生トレーナー活動に興味があり自分も参加したい」「栄養の話がおもしろかった」「食をとりながら講義もいいのでは」「アスレチックトレーナーの話が聞きたい」などの回答があった。受講学生の中で理学療法専攻学生が多かった事から、テーピング法やトレーニング法、救急法など実技の要望が多数認められた。座学のみならず、より実践型の講義形式、グループワーク形式なども今後の検討課題と思われた。

V. 今後の展望

熊本県は2019年世界女子ハンドボール選手権開催⁴⁾が決定し(図9)またその翌2020年には東京でオリンピック・パラリンピックも開催される。オリンピック出場となれば、日本男子ハンドボールチームにおいてはソウルオリンピック以来32年ぶり、女子においてはロサンゼルスオリンピック以来36年ぶりの出場となり、日本ハンドボール協会においても啓



24th IHF
WOMEN'S HANDBALL
WORLD CHAMPIONSHIP
KUMAMOTO / JAPAN 2019

図9 2019年女子ハンドボール世界選手権大会
シンボルマーク

蒙活動としてこの上ないチャンスが訪れることとなる。

これを機会に日本選手の競技力向上はもとより、ハンドボール競技の啓蒙活動も最大級のものが要求される。医科学的な立場ではより高度なサポート体制の構築、例えば重篤な選手搬送にはドクターヘリコプター、緊急事態に対応するリザスターカー待機、

一般的な怪我など実際に運用が予想される後方支援病院との連携システム等，安全安心かつスムーズな大会運営など世界最高レベルの大会運営へ準備する必要がある。

世界選手権は通常24カ国出場で予選リーグ，決勝トーナメント，順位決定戦が行われ，全76試合程度が開催される。大会運営上，多数のスタッフが必要不可欠である。もちろん医科学スタッフの中心は医師やトレーナーなど有資格者であるが，そのサポートを行うスタッフとしてメディカルサポーター修了者の活躍が期待される。

この準備と経験が2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会運営へもつながると考える。

今回のアンケート結果から，これまでの講習会の開催方法には概ね満足している回答結果が得られたが，講師の選定においてはトレーナーやハンドボール選手の話など多職種の講師要望があり，講義内容ではテーピング法やトレーニング法など，より実践型の講義要望もみられ今後検討していく必要性が示唆された。

未だ熊本県下小中高校等の大会レベルへのメディカルサポーター帯同の実現にはまだまだ程遠いのが現状だが，3年後の迫る世界女子ハンドボール選手権開催へ向けて今後はメディカルサポーター修了者名簿の運用，実技研修の開催，大会帯同予定等，具体的行動に移行していく必要性を感じている。マン

パワーの問題への対処は早すぎることはなく，今回のハンドボールメディカルサポーター養成講習会アンケートの結果も踏まえ更に改善を加え，養成講習会終了者が2019年世界女子ハンドボール選手権熊本大会に医科学サポーターの一員として貢献できるよう準備をしていく予定である。

本研究における利益相反は存在しない

引用文献

- 1) 公益財団法人日本体育協会：公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト1，アスレチックトレーナーの役割，73-76，2009
- 2) 小森田敏，河野一郎，斎藤武利，他：ラグビーにおけるメディカルサポーター制度の現状について．日本体育学会大会号（43B），684，1992-10-31
- 3) 一般社団法人宮崎県サッカー協会ホームページ，<http://miyazaki-fa.net/sports-medicine/?p=765>（2015年11月25日引用）
- 4) 公益財団法人日本ハンドボール協会ホームページ，http://www.handball.jp/jha/oshirase/2015/2019WHWC_mark4.pdf（2015年11月25日引用）

（平成28年3月7日受理）

Report of hand-ball medical supporter training seminar for co-medical students Result of the questionnaire survey afterward seminar

Syuichi JINGAMI, Katsuhiko SAKUMA, Koujiro IMOTO

Abstract

[Purpose] In order to enrich the medical support of the Competition held by Kumamoto Handball Association (KHA), the seminar to train the handball medical supporter was carried out for the co-medical students in Kumamoto. Lecturers of this seminar were all volunteers as doctors, trainers, referees, and some coaches, they are well-acquainted with handball. Each lecturer presented visual slides using many pictures and video films for about 15-20 min and total seminar time was 2 hours. This seminar was held once a year and has been completed 5 times since 2010. Mean number of each seminar attendants were 54.6 (22~76) and 277 students have participated in the seminars totally. The participation fee was free and the completion certificate was awarded from KHA. In the recent seminar, 59 out of 76 participants answered questionnaires. [Result] 33 students were very satisfied and 24 were quite satisfied, which means that 57 (97 %) of the participants are satisfied in the total satisfaction of the seminar. In the content of visual lectures using slides and videos, 37 students were very satisfied and 19 were quite satisfied, and none was unsatisfied. 56 (95%) had a positive view about the date of the seminar held and 43 (75%) responded that the two hour lecturing was just right time. In the each lecture time for 15-20min, 39 (66%) responded as just right time. [Conclusion] We concluded these seminars were significantly and meaningful, so we would work to improve and reform them to prepare for the Women Handball World Championship held in 2019 in Kumamoto.